

良質・良食味で多収の水稲新品種候補系統「三重6号」							
[要約] 水稲「 <u>三重6号</u> 」は、 <u>中生の良質</u> 、 <u>良食味</u> 、 <u>多収系統</u> である。草姿が良く、耐倒伏性が強く、 <u>胴割粒</u> の発生は少ない。平成13年から、三重県で <u>奨励品種</u> に採用予定である。							
三重県科学技術振興センター農業技術センター バイオテクノロジー・新品種開発グループ、伊賀農業センター						連絡先	0598-42-6362 0595-37-0211
部会名	水田・畑作物	専門	育種	対象	稲類	分類	普及

[背景・ねらい]

三重県の中山間地域の主要品種である「ヤマヒカリ」は、胴割粒、穂発芽粒の発生が問題となっており、近年栽培面積が減少傾向にある。また、早生品種に作付が偏重している平野部においても、大規模農家の作期分散を図るため、中生品種の育成要望が強い。

そこで「三重6号」を奨励品種に採用し、中山間地域の水稲の品質向上、平野部での作期分散を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 中生の良質・良食味品種の育成を目標に、平成3年に愛知92号(後の「祭り晴」)を母とし、「越南148号」を父とした人工交配を行い、翌年薬培養から得られた系統を選抜、以後特性調査を実施してきた。平成12年度の世代はF₁A₉である。
2. 出穂期は「ヤマヒカリ」より1~2日程度早く、成熟期は1~2日程度遅い。三重県の熟期区分では、中生に属する。
3. 稈長は「ヤマヒカリ」より6cm程度短く、穂長は2cm程度長い。穂数は「ヤマヒカリ」と同程度で、草型は偏穂重型に属する。
4. 茎の太さは中で、耐倒伏性は「ヤマヒカリ」と同程度の「強」である。また穂発芽性は「やや難」であり、「ヤマヒカリ」に比べ穂発芽しにくい。
5. いもち病真性抵抗性遺伝子は*Pita2*を持つと推定される。白葉枯病抵抗性は「祭り晴」と同程度の「弱」である。
6. 玄米千粒重は「ヤマヒカリ」と同程度の中粒である。外観品質は透明感があり、良好である。また胴割粒の発生は「ヤマヒカリ」に比べ、少ない。
7. 収量は「ヤマヒカリ」より多収である。
8. 食味は「ヤマヒカリ」と同程度の良食味である。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及地帯は伊賀、北勢の中山間地域。普及予定面積は、3,000haである。
2. 強稈で耐倒伏性は強いが、良質・良食味米生産のため、多肥栽培は避ける。
3. 白葉枯病の常発地での栽培は避ける。

[具体的データ]

表1 「三重6号」の特性概要

系 統 名	三重6号		組合せ	愛知92号(祭り晴) / 越南148号	
特 性	長所 1. 外観品質が良好である 2. 収量性が高い 3. 食味が優れる		短所 1. 白葉枯病抵抗性が「弱」である		
普 及 見 込 面	3,000ha				
調 査 地	農業技術センター		伊賀農業センター		
調 査 年 次	平成8年～12年		平成9年～12年		
系 統 名 品 種 名	三重6号 中生	ヤマヒカリ 中生	三重6号 中生	ヤマヒカリ 中生	
草 型	偏穂重	偏穂重	偏穂重	偏穂重	
出穂期(月日)	8.07	8.08	8.06	8.08	
成熟期(月日)	9.10	9.09	9.13	9.11	
稈長(cm)	72	78	71	77	
穂長(cm)	20.3	18.6	20.6	18.5	
穂数(本/m ²)	331	350	354	348	
芒の多少	稀	稀	稀	稀	
ふ先色	黄白	黄白	黄白	黄白	
穎色	黄白	黄白	黄白	黄白	
脱粒性	難	難	難	難	
耐倒伏性	強	強	強	強	
穂発芽性	やや難	やや易	やや難	やや易	
耐病性	いもち	真性葉穂	Pita2 - -	Pita2 - -	Pita2 - -
	白葉枯		弱	中	弱
玄米	収量(kg/a)	61.9	51.7	66.6	55.5
	対標準比(%)	120	100	121	100
	千粒重(g)	23.6	23.3	23.2	23.7
胴割粒比率(%)	2.2	24.2	7.2	12.8	
玄米品質	3.2	4.5	5.3	5.7	
食味	上の中	上の中	上の中	上の中	

注) 胴割粒比率(%): 平成11～12年、米粒判別器(Kett RN-500)により測定

[その他]

研究課題名: 水稻新品種の育成、水稻奨励品種決定調査

予算区分: 県単および国補

研究期間: 平成12年度(平成2年～12年)

研究担当者: 橘 尚明、山川 智大、村上 高敏、宮本 啓一、河野 満